

ミケランジェロ③

私のカップと世界巡る

白道のカミリーノ便り

ミケランジェロは、世界中どこにいてもインターネットがあればお金を稼ぐことが出来る。

美郷町に滞在していたある日、パソコンでやりとりしていた相手はフランス人のファッションデザイナーだった。撮りためた多数の写真の中から選び出した1枚を売っていたのだ。

電子データで届けた写真の代金は口座に振り込まれ、さすらいの旅を続けるための資金となった。町役場の人から、彼を地域おこし協力隊にどうかと尋ねられた



ギリシヤで岩登りするミケランジェロ(左) 〓筆者提供

が、さすらいの魂を留め置くことは出来ない。彼はモロッコに家を持っているが、しばらく帰っていない。

ビザのために上京した後、パングラデシユで仕事を済ませ、中国を数カ月旅した。仕事で日本にちよっと滞した後、インドやタイで数カ月岩登りを楽しみ、3月はスペインで母親の手料理を味わい、4月は撮影でポリビアに行った。仕事の後、ラパスで6週間岩を登り、6月にはギリシヤでまた岩登りをしていった。

私が作ったマグカップは彼と共に世界を巡り、ホットチョコレートに溶け込んだ美郷の香りで彼を包む。

私がタイを旅していた2000年ごろ、イタリア人のメガネデザイナーに会った。彼はパリに住み、デザイナーはインターネットで送っていると言った。

そんな人たちが、世界とつながりながら、美郷のような美しい静かな村で仕事をしている光景を思い描いている。

◇

〓終わり

カミリーノ便りは、今回で終了します。